



Title	民間非営利セクターにおけるインターミディアリの機能に関する研究
Author(s)	田中, 弥生
Citation	大阪大学, 2002, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/44378
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	田 中 弥 生
博士の専攻分野の名称	博 士 (国際公共政策)
学 位 記 番 号	第 17245 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 14 年 6 月 28 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 名	民間非営利セクターにおけるインターミディアリの機能に関する研究
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 山内 直人
	(副査) 教 授 辻 正次 教 授 齊藤 慎

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、民間非営利セクターにおいて、人材、資金、情報などの資源提供者と NPO の間の仲介・調整を行う「インターミディアリ」が、トランザクション・コストの削減を通じて、資源提供におけるミスマッチ問題を解決するうえで、重要な機能を果たしていることを、理論的・実証的に明らかにした。また、インターミディアリの重要な機能である「評価」について、トランザクション・コストの発生原因である不確実性の軽減に貢献しているという基本的な考え方に基づき、その概念、アプローチ、手法をレビューするとともに、最近注目を浴びている参加型評価、あるいは第三者による組織評価（認証や格付け）についても分析した。

第 1 章では、日本の民間非営利セクターについて、現状分析を通じて問題点と課題を抽出するとともに、日本特有の民法法人（財団、社団）について、独自に行った調査のマイクロデータを計量的方法（数量化 III 類）によって解析し、その性格と問題点を分析した。

第 2 章では、資金（寄付）、人材（ボランティア）、情報といった資源の提供をめぐって、資源提供者と非営利組織の間に存在するミスマッチ問題を取り上げ、発生原因などについて分析した。第 3 章では、非営利セクターにおけるミスマッチ問題の本質が、情報の偏在、不確実性などを背景として検索コスト、交渉コストなどのトランザクション・コストが過度にかかることに起因することを明らかにし、インターミディアリがミスマッチ問題を軽減するプロセスを、トランザクション・コストの概念を用いて説明した。第 4 章では、事例研究を通じて、インターミディアリの基本的機能を抽出し、そうした機能がトランザクション・コストとどのような関係にあるか分析することにより、コスト軽減にどのような役割を果たしているか考察した。

第 5 章では、インターミディアリによる非営利組織の評価について概説し、政府部門や営利企業に対する評価と比較した。第 6 章では、アメリカを中心に文献および事例をレビューし、行政評価と非営利組織評価の相違点を整理した。第 7 章では、インターミディアリによる非営利組織評価を、いくつかの事例を通して分析した。

第 8 章では、全体の総括を兼ねて、資源提供者と非営利組織の仲介役としてのインターミディアリの基本的機能について再確認するとともに、インターミディアリが非営利組織と資源提供者との間の信頼関係の醸成に寄与していることを指摘した。

論文審査の結果の要旨

本論文は、人材、資金、情報などの資源提供者とNPOの間の仲介・調整を行う「インターミディアリ」の機能を中心に、日本の民間非営利セクターについて理論的・実証的に考察したものである。

本論文の主要な貢献は以下のとおりである。第一に、日本の経済社会において民間非営利セクターが果たしている主要な機能を抽出するとともに、日本特有の民法法人（財団、社団）について、独自に行った調査のマイクロデータを適切な統計手法によって解析し、その性格と問題点を解明することに成功している。第二に、非営利セクターにおけるミスマッチ問題の本質が、情報の偏在、不確実性などを背景として検索コスト、交渉コストなどのトランザクション・コストが過度にかかることに起因することを明らかにし、インターミディアリがミスマッチ問題を軽減するプロセスを、トランザクション・コストの概念を用いて説明することに成功している点である。第三に、インターミディアリの重要な機能である「評価」について、トランザクション・コストの発生原因である不確実性の軽減に貢献しているという基本的な考え方に基づき、その概念、アプローチ、手法をレビューするとともに、最近注目を浴びている参加型評価、あるいは第三者による組織評価についても詳細に分析を加えている点である。

本論文の中心となる部分は、すでにレフリー付き専門誌等に掲載された学術論文数点を発展させる形で、周到かつ論理的に構成されており、学術的にきわめて価値の高いものと判断される。加えて、著者が助成財団のプログラム担当者として長年にわたり実務にかかわった経験が、豊富な事例研究として随所に盛り込まれており、それが主張の説得性をさらに高めている。分析方法などに部分的な改善の余地はあるが、非営利セクターにおけるインターミディアリの機能に関する包括的な分析に成功した労作といえる。よって、本論文は、博士（国際公共政策）の学位に十分値するものと判定する。